

第 26 回佐保塾史跡めぐり 難波宮跡 大阪カテドラル聖マリア大聖堂 を巡る

令和 8 年 10 月 15 日（木）、秋晴れの空の下、本部と大阪支部共催の史跡巡りが行われました。関西 5 支部（大阪、奈良、京都、滋賀、兵庫）だけでなく、愛知支部や和歌山支部からもご参加いただき、総勢 44 名となりました。今回巡ったのは、難波宮跡と大阪カテドラル聖マリア大聖堂、細川ガラシャ最期の地（越中井）、大阪歴史博物館です。

難波宮跡は大阪城の南側に位置し、現在は史跡公園として整備されています。発掘調査は、1954 年（昭和 29 年）から始まり、飛鳥時代の前期難波宮、奈良時代の後期難波宮という 2 つの時期の宮殿遺跡が見つかりました。大阪には奈良の平城京や京都の平安京より古い都があったのです。この地は大阪市の都心部にあって遺跡の保存はたいへん困難でしたが、調査の中心となった山根徳太郎博士の粘強い保存運動が実り、現在までに約 14.5ha が国の史跡に指定されています。史跡の北部には高速道路が通っていますが、高架にすると地面を深く掘らなければならないため、史跡を守るためにこの部分だけ地上を走っています。また、大阪歴史博物館の地下には柱跡が保存されており、NHK の駐車場は保存された史跡の下に作られています。この地に宮殿が作られたのは、古代は上町台地が半島のように海に突き出ており、中国や朝鮮の交易の玄関口として便利であったためであることを、古代の地図を示したり実際の道の傾斜を見たりして、大阪観光ボランティアガイド協会の方が分かりやすく説明してくださいました。公園は、前期の史跡跡と後期の跡は色分けされていて、建物の配置がよく分かるようになっていました。ガイドさんの説明を聞き、難波宮の姿を想像しながら歩きました。

その後、大阪カテドラル聖マリア大聖堂に向かいました。ここは、かつて細川越中守忠興の屋敷跡と伝えられています。中に入ると正面には堂本印象画伯の筆による「栄光の聖母マリア」があり、左右には明るいステンドグラスが配され、荘厳な雰囲気に参加者は感嘆の声を上げていました。教会から北に向かい細川ガラシャ辞世の句が刻まれている石碑のある「越中井」を訪れ、KKR ホテルでの昼食となりました。このレストランからは正面に大阪城が見え、素晴らしい景色と美味しい食事をいただきながら、普段あまりお会いすることのない他支部の方々との交流は、刺激的でした。

最後に、難波宮が実物大に再現されている大阪歴史博物館で見学地の知識を深め解散となりました。古代の大阪に思いを馳せ、他支部の方との楽しい会話を持てた有意義な 1 日となりました。

大阪支部 報告